令和３年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県央会場

科目　③子ども家庭福祉施策と放課後児童クラブ

◆　講義内容で特に興味深かったことは、東京都中野区にある「キッズプラザ桃花」です。同じ建物内の３部屋を「動」の空間と「静」の空間に分けて使用しているというのが、とてもいいアイディアだと思いました。勤務先では現在３部屋を利用していますが、学年毎に分けているため、勉強している子と遊んでいる子が同じ空間にいる状態です。ぜひ参考にしたいと思いました。

◆　ニーズに応じて変化する福祉政策を学ぶことでより深く保護者支援を行っていけるのではないかと思いました。知らなかった事業もあり、一覧にまとめられているため後で読み返しやすく、とても参考になりました。新・放課後子ども総合プランでは、最近の経緯や流れを知ることができ、振り返ることができました。東京のモデルケースを見ることで、より具体的に他のクラブの取組を知れたのが今後の方針を考えるのに参考になりました。

◆　女性の就業割合の高まりや核家族化の進行など、子どもと家庭を取り巻く環境の変化を踏まえ、子育てしやすい仕組みづくりに国や県、市が力を入れているのは素晴らしいことだと思います。様々な事業の目的や趣旨を理解し、子どもたち一人ひとりが安心して生活できるよう、健やかに育つよう、放課後児童支援員の職務を果たしていきたいと思います。そのためにも子ども理解に努め、家庭や学校、園との連携を大切にしたいと思います。

◆　放課後児童クラブの運営に関連する事業がたくさんあり、子どもとその親が安心して生活できるように環境の整備に力を入れているのだと思いました。全ては子どもの健全な育成を支援することが目的で、ニーズの変化に対応しながら常に子どもが安全安心に過ごせるよう支援していくことが大切だと思いました。また、講義では児童館の種類や特徴、障害児福祉について学ぶことができ、利用者が必要に応じて適切な支援を受けることができると理解できました。

◆　今回の講義で学んだことは、一体型の放課後児童クラブと放課後子供教室の取組が進んでいるということです。待機児童の解消を目指し、なおかつ女性就業率を上げるのが目的ということでした。注目すべき点は新たに開設する放課後児童クラブの約 80%を小学校内につくるというところです。今、小学校では年々子どもの数が減り、空き教室がたくさん存在します。そこをうまく活用し、新たな事業が成功すればとても良いことだと思いました。